



お友だちになってください!



公式LINE

謹賀新年

年の始めにベネズエラ情勢について考える

新年早々、米国によるベネズエラ侵攻作戦・マドゥロ大統領拘束という衝撃的なニュースが飛び込んできました。

私たちが馴染みのない西半球での出来事なだけに、唐突感が半端なかったと思いますが、実はすでに、昨年秋頃からトランプ政権は頻りに警告していました。

その上で、綿密な計画に基づき CIA と特殊作戦部隊の連携により今回の電撃作戦を成功させたようです。



米国とベネズエラの位置関係

米国の行動は国際法違反されど・・・

この軍事侵攻に対しては、国際法違反との批判が寄せられています。

外形的には、国連憲章が禁ずる「武力行使による一方的な現状変更」に他なりません。米国はこれまでも、1983 年のグレナダ侵攻、1989 年のパナマ侵攻、2003 年のイラク戦争など、国際法違反が濃厚な軍事行動を行ってきましたので、今更、面食らったようにそれを叫んでみても始まりません。

この際、私たちは、「**現下の国際社会が法と秩序に基づいて整然と統治されている**」という**ような甘い考えを見直す必要がある**のではないかと考えます。

今回の米国の行動を批判するのは簡単ですが、現実の国際政治はそれだけでは済まない複雑怪奇なものです。

もちろん、今回の事案がロシアの侵略行動や中国の台湾に対する強硬姿勢へどのような（悪）影響を及ぼすかについても、十分念頭に入れて慎重に対応する必要があるでしょう。中露が勢いづくかもしれませんし、戦争の長期化のリスクに対しより慎重になるかもしれません。

トランプ政権は、なぜ軍事作戦に踏み切ったのか？

ですから私は、米国トランプ政権がこの軍事作戦に踏み切った理由や、それによって達成しようとしている戦略目的が何なのかをしっかりと把握することが、より重要ではないかと考えます。

長島昭久プロフィール

(裏面につづく)

自由民主党・衆議院議員(8期目)。東京30区(府中市・多摩市・稲城市)選挙区支部長。
自由民主党政務調査会長代理、児童の養護と未来を考える議員連盟会長、日韓議員連盟幹事長、衆議院 財務金融委員会委員。
日本スケート連盟会長、日本スポーツ協会参与、東京都銃剣道連盟会長、東京都ゴルフ連盟相談役、東京都軟式野球連盟会長。
昭和37(1962)年2月17日生まれ。寅年。慶應義塾大学大学院修了。米国ジョンス・ホプキンス大学で修士号取得。
これまでに、防衛大臣政務官、防衛副大臣、首相補佐官(国家安全保障)を歴任。趣味は大相撲・野球観戦、水彩画。妻と娘2人。